

## 私の個人主義について

野村幹弘

参考文献：私の個人主義 講談社学術文庫 夏目漱石 1978年

### 道楽と職業

とにかく職業は開化が進むにつれ非常に多くなっている。。。 (16p)

例えば私がこの着物を自分で織って、、、何も人のお世話にならない時期があったとする。(略) そういう時期こそ本当の独立独行という、、、。(18p)

己のためにする仕事の分量は人のためにする仕事の分量と同じである、、、。(略) この関係を最も簡単にかつ明瞭に表しているのは金ですな。(19p)

そこでね、人のためにするという意味を間違えてはいけませんよ。(略) もっと手短かに述べれば人のご機嫌を取ればというくらいの事に過ぎんです。(21p)

現に芸者というようなものは、(略) ちょっと指輪を買うのでも千円とか五百円という高価なものの中からよりどりをして余裕があるように見える。私は今ここにニッケルの時計しか持っておらぬ。高尚な意味で言ったら芸子よりも私の方が人のためにすることが多く、、、。つまり、芸子は有徳な人だからああいふ贅沢ができる、、、。(22p)

、、、つまり吾人の社会的知識が狭く細く切り詰められるので、、、大きくいえば現代の文明は完全な人間を日に日に方輪者に打崩しつつ進む、、、。(略) 昔の学者はすべての知識を自分一人で背負って立っていたように見えますが、今の学者は自分の研究以外には何も知らない、、不具がそろっているのであります。(23p)

小宮山宏先生の知の構造化の背景と同じ！

いやしくも道楽である間は自分に勝手な仕事を自分の適宜な分量でやるのだから面白いに違いないが、その道楽が職業へ変化する刹那に今まで自分にあった権威が突然他人の手に移るから快樂がたちまち苦痛になるのはやむを得ない。(30p)

## 現代日本の開化

、、、人間活力の発現上積極的という言葉を用いますと、勢力の消耗を意味することとなる。またもう一つの方はこれとは反対に勢力の消耗をできるだけ防ごうとする、、、消極的と申したのであります。(44p)

活力節約の方からいえば出来るだけ労働を少なくしてなるべくわずかな時間に多くの働きをしようと工夫する。(46p)

いやしくもこの二種類の活力が上代から今に至る長い時間に工夫し得た結果として昔よりも生活が楽になっていなければならないはずであります。けれども実際はどうか？打ち明けて申せばお互いの生活ははなはだ苦しい。(50p)

昔の人間と今の人間がどれくらい幸福の程度において違っているかといえば、、、、生存競争から生じる不安や努力に至っては決して昔より楽になっていない。(51p)

されば、自動車のない昔はいざ知らず、いやしくも発明される以上人力車は自動車に負けなければならない。(52p)

それで現代の日本の開化が前に述べた一般の開化とどこが違うかというのが問題です。(略)西洋の開化は内発的であって、日本の現代の開化は外発的である。(54p)

これを一言にしていえば現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるという事に帰着するのである。(略)涙を吞んで上滑りに滑っていかなければならないということです。(62p)

日本の開化文化の真相もこの話と同様で、分からないうちこそ研究もしてみ

たいが、こう露骨にその性質が分かって見るとかえって分からない昔の方が幸福であるという気にもなります。(65p)

## 中身と形式

すると子供からよく質問を受けて弱るのです。(略) その問いははなはだ簡単でただどちらが善人でどちらが悪人かというだけなんです。(72p)

誰より誰の方が偉いとか優っているかといって、一概に上下の区別を立てようとするのは大抵の場合においてその道に暗い素人のやることであります。(74p)

以上を一口にしていえば物の内容を知り尽くした人間、中身の内に生息している人間はそれほど形式に拘泥しないし、また、無理に形式を喜ばない傾きがあるが、門外漢になると中身が分からなくなってもとにかく形式だけは知りたがる、そうしてその形式がいかにもその物を現すのに不適當であっても何でもかまわずに一種の知識として尊重するという事になるのであります。(75p)

業務についての自分(組織としての秩序)と業務を離れた自分(自由)はどう見たって矛盾である。しかしこの矛盾は生活の性質から出るやむを得ざる矛盾だから、形式から見れば矛盾の様であるけれども、実際の内面生活からいえばかく二様になる方がかえって本来の調和であって、無理にそれを片付けようとするならばそれこそ真の矛盾に陥るわけじゃなかろうかと思えます。(78p)

近頃流行る飛行機でもその通りで、、、こういう風に羽翼を付けて、こういうように飛ばせば飛ぬはずはないと見込みがついた上で、、、。(略) 経験の裏書を得ない形式はいくら頭の中で完備していると認められても不完全な感じを与えるのであります。(84p)

しかるに今この順序主客を逆さまにしてあらかじめ一種の形式を事実より前に備えておいて、その形式から我々の生活を割り出そうとするならば、ある場合はそこに大變な無理が出なければならぬ。(85p)

いわんや活きた人間、変化のある人間というものは、そう一定普通の型で支配されるはずがない。(略) 時と場合に応じて無理のない型を据えてやらなければ

ば塔底こっちの要求通りに運ぶわけのものはない。(89p)

内容の変化に注意もなく頓着もなく、一定不変の型を立てて、そうしてその型はただ在来あるからという意味で、また、その型を自分が好いているというだけで、そうして傍観者たる学者のような態度を以て、相手の生活の内容に自分が触れることなしに推して行ったならば危ない。(90p)

## 文芸と道德

昔の道德といえは維新前の道德、すなわち徳川氏時代の道德を指すものではありますが、、、完全な一種の理想的な形を拵えて、その形を標準としてその形は吾人が努力の結果できるものとして出立したものであります。(95p)

つまり人間はどう教育したって不完全なものであるということに気付かなかった。(97p)

昔渴仰した理想その物がいつのまにか偶像視せられた、その代わり事実というものを土台にしてそれから道德を造り上げつつ今日まで進んできたように思われる。(99p)

有体に白状すれば私は善人でもあり悪人でも、、、まず、善悪とも多少混じった人間なる一種の代物で、、、。(100p)

今の若い人は余程自由が利いているように見えます。(略)今の若い人は存外淡泊で、昔のような感激性の詩趣を論理的に發揮することは出来ないかもしれないが、大体吹き抜けの空筒でも何でも隠さないところが良い。(102p)

何らかの拍子で、、、大きな放屁ををするとする。そうすると諸君は笑うだろうか、怒るだろうか。(略) どうしてこういう結果の相違を来すかというと、それは同じ行為に対する見方が違うからだと言わなければならない。(106p)

道德は文芸に不必要であるがのごとく主張するのははなはだ世人を迷わせる盲者の盲論と言わなければならない。(108p)

後半は、浪漫主義と自然主義の対比であるが、「中身と形式」で主張している現実主義で

理解できると思われる。

## 私の個人主義

この時私は文学とはどんなものであるか、その概念を根本的に自分で作り上げるより外に、私を救う道はないのだと悟ったのです。今までは全く他人本位で、根のない浮き草のように、そこにでたらめに漂っていたから、駄目であったという事によりやく気付いたのです。(133p)

この文章は「文学」を他の概念に置き換えても応用可能である。

たとえば西洋人がこれは立派な詩だとか、口調が大変良いとかいっても、それはその西洋人の見るところで、私の参考にならんことはないにしても、私にそう思えなければ、塔底受け売りするべきはずのものではないのです。私が独立した一個の日本人であって、決して英国人のヌヒでない以上はこれくらいの見識は国民の一員として具えてならなければならない上に、世界に共通な正直という徳義を重んずる点から見ても、私は私の意見を曲げてはならないのです。(134p)

一口でいうと、自己本位という四字をようやく考えて、その自己本位を立証するために、科学的な研究やら哲学的の思索に耽り出したのであります。(135p)

私のような詰まらないものでも、自分で自分が道をつけつつ進み得たという自覚があれば、あなた方からみてその道がいかにかに下らないにせよ、それはあなた方の批評と観察で、私には寸毫の被害がないのです。私自身はそれで満足するつもりであります。(138p)

もしそこまで行ければ、、、、生涯の安心と自信を握る事が出来るようになると思うから申し上げます。(140p)

権力とはさっきお話しした自分の個性を他人の頭の上に無理矢理押しつける道具なのです。(略) この金力を同じくそうした意味から眺めると、これは個性を拡張するために、他人の上に誘惑の道具として使用し得る至極重宝なものになるのです。(141p)

ここから話題が展開している。

こういう力（権力と金力）があるから、偉いようであり、その実非常に危険なのです。（142p）

それで私は常からこう考えています。第一にあなた方自分の個性が発展できるような場所に尻を落ち付けるべく、自分とぴたりと合った仕事を発見するまで邁進しなければ一生の不幸であると。しかし、自分がそれだけの個性を尊重し得るように、社会から許されるのならば、他人に対してもその個性を認めて、彼らの傾向を尊重するのが理の当然となって来るでしょう。（143p）

元来をいうなら、義務の付随しておらない権力というものが世の中にあるはずがないのです。（145p）

私の考えによると、責任を解しない金力家は、世の中にあってはならないものです。（145p）

ある程度の修養を積んだ人でなければ、個性を発展する価値もないし、権力を使う価値もないし、また、金力を使う価値もないという事になるのです。（147p）

この個人主義という意味に誤解があってははいけません。（略）個人の自由は先刻お話しした個性の発展上きわめて必要なものであって、その個性の発展がまたあなた方の幸福に非常な関係を及ぼすのだから、どうしても他に影響のない限り、僕は左を向く、君は右を向いても差し支えないくらいの自由は、自分でも保持し、他人にも付与しなくてはなるまいかと考えられます。（149p）

既に党派でない以上、我は我の行くべき道を妨げないのだから、ある時ある場合には人間がばらばらにならなければなりません。（151p）

以上